



JR東労組（東日本旅客鉄道労働組合）
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階
電話 03-5315-0941
発行人 加藤誠 編集人 湯ノ目亜矢子
毎月1回20日発行／一部20円
（組合員の購読料は、組合費に含む）

2025年11月20日

第781号



JR東労組ホームページは
←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>

第44回定期大会以降の拡大
(2025.6.12～)

ようこそ!
22名

JR東労組で共に頑張っていきましょう!

2025年度年末手当 基準内賃金の**3.0ヶ月**

JR東日本グループの新しい
時代の構築に向けた経営ビジョ
ン「勇翔2034」を掲げその
実現に向けた社員一丸となった
取組みが始動したことを踏まえ

+特に0.1ヶ月

支給日(予定) 12月3日

11月15日 苦渋の判断で妥結!

2025年度年末手当のたたかいの柱
「年間6ヶ月以上の期末手当を勝ち取ろう!」「職場から
のたたかい強化で組織の一体感をつくり出し、努力に報
いない経営姿勢に立ち向かう!」の基にたたかい抜いた
成果を確認し、組織強化・拡大を実現しよう!



10月16日に申6号「2025年度年
末手当に関する申し入れ」を提出して
以降、要求根拠などの議論を重ね、物
価上昇による厳しい生活実感や、要員
不足のなか過去最高の働き度である労
働実感など、アンケートを含め組合員
・未加入者・社友会会員・他労組組合
員から約1万3千件を超える声が寄せ
られました。

11月11日の団体交渉の場で、会社か
ら「3・0ヶ月+0・1ヶ月」という
回答が示されました。6年ぶりに3ヶ
月を超える回答ですが、①営業利益を
主として見ること②支給額を重要視す
ること③社員よりも株主に厚く還元す
ること④要員不足をはじめとした組合
員・社員の職場での苦労を「受け止め
る」としながらもそれが数字に表れな
いこと⑤参考資料に現在労使議論中の
今後の期末手当の考え方が掲載されて
いることに対する組合員の不満や怒り
の声を寄せられました。

本部は、申8号「慢性的な要員不足
が深刻化する中で奮闘している組合員
・社員の努力に報い、モチベーション
の向上を求める年末手当に関する緊急
再申し入れ」を行い、要求満額回答を
求めました。

特に、社長が10月の記者会見で「人
手不足の認識はない」と述べたことに
ついて、職場の反響は非常に大きいも
のになっていることを交渉で訴えまし
た。「必要な要員は確保している」と
会社は回答しますが、全ての系統で、
日ごとに「要員不足」の声は大きくな
るばかりで、職場と経営陣との労働実
感には大きな乖離があると言えます。
現場を第一とし、ない経営姿勢では、
命を奪いかねない重大事故が発生する
という危機感を持たざるを得ません。そ
のような経営姿勢を突破するために
は、職場で奮闘する働く者の立場に立
ち、その苦労と怒りを共有し、「安全
・健康・ゆとり」ある職場を求め、仲
間と共に団結を強化して立ち向かって
いかなければなりません。



要求は実現に至りませんでした。が、
年間6ヶ月以上をめざし、仲間と共に
最後までたたかいました。コロナ禍を
乗り越え、職場からのたたかいによ
り、3・0ヶ月の壁を超えたことは確
認できます。その一方、納得感も得ら
れず、会社への不満、不信感が拭えな
い回答ではありますが、26春闘と夏季
手当に向けた課題が明確になったこと
から中央執行委員会は苦渋の判断とし
て妥結しました。

バス東北本部・バス関東本部・ス
テーションサービス協議会の仲間と共に
要求実現に向けて連帯を強化し、JR
総連に結集する全ての仲間と最後まで
共にたたかい抜いていこう!



先日、写
真部の撮影
会に参加し
た。私自身
趣味で鉄道
写真を撮る初
めて、今年で28年目になる。若
い頃から様々な土地に出向
き、自然の中で鉄道の撮影を
してきたが、今回の撮影
会のエリアは熊の出没が度々
あるということで、いつもと
は違う緊張感を持ちながらの
撮影会となった▼熊の被害は
毎日のように報道されている
が、今年4月～10月末現在で
人身被害件数は過去最悪とな
っている▼今回の撮影会と往
復の移動中に、耕作放棄地が
増えていたり、至るところで
雑草が伸びたままになってい
たり、森の手入れがされてな
いために人間と熊をはじめて
する動物たちとの境界が分か
りにくくなっていることを改
めて感じた▼自然のバランス
が崩れ、人への被害が多発し
ている背景は、異常気象、産
業構造の変化、地方都市の衰
退、少子高齢化の急速な進展
など多くの要因が絡んでいる
と思う。熊の被害が多いから
駆除という考えだけでなく、
私たちの生活、経済活動が自
然とどう関係しているのか、
解決への糸口は何か?などと考
える必要があると改めて感じ
た。自然環境について、自分
に何ができるのか考えるき
かけになった撮影会だった。

(T・S)